

令和元年度行政評価委員会 議事要旨（未定稿）

会 議 名	第2回葛飾区行政評価委員会第二分科会
開 催 日 時	令和元年7月11日（木） 午後3時から5時まで
開 催 場 所	葛飾区役所5階 庁議室
出 席 者	【委員7人】 小松原会長、大畑委員、上村委員、田中委員、谷本委員、西山委員、村上委員 【区側8人】 事務局（政策経営部長、経営改革担当課長、事務局職員3人） 学校施設課（学校施設課長、管理係長、職員1名）

会議概要

1 開会

（事務局より資料の確認等を行った）

2 事務事業の概要説明及びヒアリング（日光林間学園運営）

（学校施設課より「日光林間学園運営」の概要について説明をした後、質疑応答、議論）

小松原会長：コストの内訳で、特定財源が計上されているが、平成29年度は基金繰入金か。

事務局：その通りである。

小松原会長：基金繰入金の金額は一律でないが、基準があれば、調べて教えてほしい。

小松原会長：活動指標で、「利用延部屋数」が記載されているが、1年間通して全部屋利用した場合の利用延部屋数を教えてほしい。

事務局：宿泊可能日数約340日に、宿泊可能室28室を掛けた9520部屋である。

A委員：熊が出没する心配はないか。

学校施設課：7月7、8日に熊の目撃情報があったが、すぐに安全対策をとった。

A委員：今後、対策を講じる予定は？

学校施設課：様子を見る必要はあるが、今後頻繁に熊が出没するようであれば、他部署や日光市と相談しながら、対応を考えていきたい。

- A委員 : 事前に利用者に周知し、対策を講じる必要がある。
- 学校施設課 : 熊が一度出沒した段階で、利用予定者や保護者にも事前周知している。今後も周知は漏れなく実施する。
- A委員 : 平成30年度に大規模修繕をしたにも関わらず、減価償却費が毎年同じ金額で計上されるのはなぜか。
- 事務局 : 行政評価では、役所の会計と同様、単式簿記の考えを採用しているためである。
- B委員 : 葛飾区立全小学校の6年生が、日光林間学園を利用しているのか。
- 学校施設課 : その通りである。
- B委員 : 全部で何人いるか分かれば次回教えてほしい。また、移動教室の利用人数の児童・生徒は区内のみか。
- 学校施設課 : 移動教室の利用人数の児童・生徒は、葛飾区立全小学校6年生と、中学校5～6校をあわせた数字である。
- B委員 : 公用とは何を表しているのか。
- 学校施設課 : 施設の下見、学校の先生、区の職員研修などが含まれている。
- B委員 : 区外の一般利用人数が区内の利用人数より多いのはなぜか。
- 学校施設課 : 横浜市などの他自治体の移動教室などで利用した人数が、一般利用人数にカウントされていることが大きな要因だと分析している。
- B委員 : 次回までに、区外と区内の一般利用人数を分けた数字を示してほしい。
- C委員 : 指定管理者制度はいつから導入しているのか。指定管理者を選んだ理由を教えてください。
- 学校施設課 : 指定管理者制度は、平成19年度から導入している。以前の指定期間は3年だったが、現在の指定期間は5年で、プロポーザル方式を採用している。指定管理者を選定する基準は、運営方法、維持管理、職員の体制などの提案を受けて、総合的に判断している。
- C委員 : PR方法を教えてください。
- 学校施設課 : PRは、区内の小学校全生徒に対するお知らせの配布や葛飾区のHP、日光林間学園のHPに掲載している。他にも、日光市のイベントで、日光林間学園の展示物を出展している。
- C委員 : PRは指定管理者が行っているのか。
- 学校施設課 : 基本的には、指定管理者がPRしているが、PR方法は指定管理者に相談している。
- D委員 : 施設がある場所は素晴らしいので、市とタイアップして宣伝すれば良いと思う。
- E委員 : 日光を利用する人は高齢者が多い。高齢者を集客する方法を考え

れば、利用人数も増えると思う。食事や清掃も委託費に含まれているのか。

学校施設課：その通りである。食事のメニューは、できるだけ現地の食材を使用するように話している。

F 委員：林間学園という名前が、学校のイメージがするので、名称を検討して、広い世代が利用できるようにPRすると良い。外国人の利用状況を教えてほしい。

学校施設課：利用実績はない。外国人の集客は今後検討していきたい。

F 委員：日光林間学園の場所が分かりにくいので、分かりやすい目印などを付けると良い。

E 委員：外国人のPRに力を入れた場合、大幅に利用人数が増え、葛飾区民が利用できない可能性もある。葛飾区民が利用できる仕組みを作ってから、集客方法を検討するべきだ。

B 委員：ホッケーリンクの維持費などは高くないか。

学校施設課：ホッケーリンクは区が所有している施設ではないので、維持費は発生しない。

B 委員：なぜ葛飾区が日光林間学園を保有しているのか。

学校施設課：一番の理由は、葛飾区の公立小学校の校外学習で活用していただきたいからである。

B 委員：売却して、他事業に税金を投入しても良いのではないか。他の区がどのような施設運営をしているか知りたい。また、外国人の利用客が増えただけでは、区民にとってのメリットが感じられない。多文化交流や葛飾区の産業振興と併せた企画も考えてもらいたい。

学校施設課：指定管理者には、冬場の集客について、対策を一緒に考えていこうという話はしている。外国人を集客の対象にするかは、多角的な視点で慎重に検討していきたいと考えている。

A 委員：指定管理者の体制はどうなっているのか。

学校施設課：指定管理者の現地の体制などが分かる資料は、次回用意する。

A 委員：指定管理者からもっとアイデアを提案させるべきだ。

E 委員：宿泊の申込方法が非常に複雑である。厳しく指定管理者に指導するべきだ。

学校施設課：我々も指定管理者にもっと提案していかなければと考えている。

C 委員：利用者の年齢構成などが分かるようにアンケート調査をした方が良い。集客数を増やすならば、高齢者をターゲットに絞るべきだ。

学校施設課：施設で利用者アンケートを取り、年齢構成も把握している。日々利用者に対して改善に繋げているが、申込方法など今回把握できた

部分は今後改善していきたい。

小松原会長：葛飾区のHPを確認したが、平成24年4月1日から更新されていない。更新した方が良い。日光林間学園のHPも確認したが、口コミを書く欄がない。集客を増やすためには、工夫がより一層必要だ。また、外国人の集客数を増やすことに重きを置くと、事業の目的と齟齬が生じる。事業目的の兼ね合いも含めて、議論する必要がある。

E委員：葛飾区以外で、都内の自治体や横浜市を含めてどのくらいの自治体が日光林間学園のような施設を保有しているのか次回教えてほしい。

F委員：宿泊料などは、どこの歳入になるのか。指定管理者は、年間ノルマがあるのか。

学校施設課：年度ごとに、目標収入、目標利用者数を設定している。それに伴って利用収入を設定している。それを超えた分の何割かは区に還元する規定がある。収支でマイナスが出た場合の規定は設けていない。

F委員：子ども達にとって、日光林間学園は良い体験を積める場なので、是非残したい。区が保有するメリットは、区民が優先的に施設を利用できることだ。民宿を手配し、臨海学校を運営することは非常に困難だ。このような施設は、子ども達が学ぶ環境が整っており、様々な事が出来るので、大切な場所である。収支のマイナス部分を埋めるならば、区民が使いやすいように、名称を変更して、広く周知するべきだ。

小松原会長：単位当たりのコストで、単位の定義が管理対象面積では、コストが計れない。延宿泊人数が適切ではないかと思う。次回の会議で、延宿泊人数を単位の定義に設定して再計算した資料を提出してほしい。

E委員：子どもに税金を投入することは大切なことなので、創意工夫を凝らしてほしい。

A委員：冬季を廃止する考えはないか。

学校施設課：考えていない。

A委員：事業目的の対象者の拡大は考えているのか。

学校施設課：区民の方に利用していただくことが一番だが、区外、外国人の方にも利用していただきたいと考えている。

小松原会長：事業目的に記載されているように、区民の利用者数を増やすのか、区民以外にも拡大して利用者数を増やすことを考えていくのか、

明確にする必要がある。

学校施設課：一番は区民優先である。高齢者の話が先ほど出たが、憩い交流館などに出向いて、PRすることは、実施したいと考えている。また区の観光施設とタイアップすることも検討していきたいが、日光林間学園は、子ども達の利用に焦点を置いた施設と考えている。

A委員：それならば、PR方法などを指定管理者とともに、全面的に改善していくべきだ。

B委員：施設を利用した先生や引率者は満足しているのか。区民が優先的に利用できるという理由だけで、施設を保有するべきではない。子ども達の利用に焦点を置くならば、墨田区のように、利用料金を下げ、大人の利用料金を上げるなど、コストに関しては、次回議論できれば良い。

小松原会長：事業の方向性、事業目的を見直しながら、次回議論したい。

C委員：今回は、施設の状況が分かるスライドを用意してほしい。

D委員：子どもが現地に行って楽しみ、大人たちにその感動を伝えられる何かがあれば、冬の利用者も増えるのではと思う。

A委員：冬だからこそ出来る体験もあるので、今のままではもったいない。

3 その他

事務局より事務連絡

4 閉会